

平成18年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 人間形成講座

氏 名 木内 陽一

プロジェクトの名称	大学での課外活動が心理的 well-being に及ぼす影響について —フィルハーモニー管弦楽団の活動を通して—	配分 予算額	169,000 円
プロジェクトの概要	<p>本研究の目的は、自我形成の場であると位置づけられている本学の課外活動が、実際に学生の自我形成や自己実現の場として機能しているかどうかについて検討することであった。課外活動における自我形成の達成には、活動を通して、充実感、達成感、満足感等が関与していると考えられる。そこで本プロジェクトでは、技術の向上のための挑戦と努力、後輩への指導、自分の考えと他者の意見の調整、などの活動が豊富に含まれると考えられる鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団を調査対象として、活動時の具体的な経験、及び課外活動時の充実感、満足感、達成感の程度を査定すると同時に、Ryff(1989)の心理的 well-being の概念を用いて自我形成、自己実現の達成に関わる様々な要因に関わる実態を調査した。</p> <p>実施時期：7月～8月 調査の対象：本学のフィルハーモニー管弦楽団で課外活動を行っている学生、およびその卒業生を調査対象とした</p> <p>調査対象選択理由：課外活動において、技術の向上のための挑戦と努力、後輩への指導、自分の考えと他者の意見の調整、などの活動が含まれる課外活動団体を調査対象とする。それは、上記の経験を通して得られる、充実感、達成感、満足感等が自我形成や人間形成の主要因として考えられるからである。フィルハーモニー管弦楽団は、上記の活動が行われていること、現部員の協力が得られること。卒業生のネットワークが強く、卒業生へのアンケート調査が可能であること等の理由で調査対象とした。</p> <p>調査方法：活動時の具体的な経験、及び課外活動時の充実感、満足感、達成感の程度を査定する質問項目に加えて Ryff(1989)の心理的 well-being^②に関わる5段階尺度評定を加えたアンケート用紙を在学時に鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団の団員であった者に郵送し、記入されたアンケートを返送によって回収した。</p>		
成果の概要	<p>〔課外活動時の充実感、満足感等〕 有効回答者数56人の5段階尺度の平均評定値（5点満点で5点に近いほど程度が高く、1点に近づくほど程度が低いことを示している）から以下の点が明らかにされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動で高い充実感が感じられていた（平均評定値：4.41） ・課外活動で高い達成感が感じられていた（平均評定値：4.22） ・課外活動でよい人間関係が築けた（関連項目の平均評定値：4点以上） ・課外活動である程度の満足感が得られていた（関連項目の平均評定値：3.5点以上） ・課外活動で高い積極性がみられた（関連項目の大部分での平均評定値：4点以上） <p>〔自我形成、自己実現の達成に関わる要因に関わる実態〕 Ryff(1989)の心理的 well-being の尺度による主な要因に関わる実態については以下の点が明らかにされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い人格的成長がみられた（平均評定値：4.16） ・人生の目的をしっかりと持つことができた（平均評定値：4.08） ・積極的な他者関係を持つことができた（平均評定値：3.98） ・自律性（平均評定値：3.23）、自己受容（平均評定値：3.44）、環境制御力（平均評定値：3.44）については若干望ましい傾向が見られた。 <p>〔結論〕 本学フィルハーモニー管弦楽団に関わる課外活動は、充実感、達成感、満足感を高く感じさせ、活動に対して積極的な姿勢を養い、団員間のよりよい人間関係を築くことに貢献していることが示唆された。さらに、このような様々な心理的効果、社会的効果を伴う課外活動を体験した者は自我形成、自己実現に関わる要因についても、特に人格的成長、人生の目標をしっかりと持つこと、積極的な他者関係を築くこと、において望ましい姿にあることが明らかになった。これらの結果から、本学フィルハーモニー管弦楽団に関わる課外活動が少なからず自我形成や自己実現の場として機能していることが示唆された。</p>		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
2. 概要については、800字程度にまとめること。
3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
4. なるべくパソコン等で作成願います。